

学校での授業改善、子どもたちの学習習慣等の 確立を図り、学力向上につなげましょう！

全国学力・学習状況調査は、教科に関する調査と児童生徒に対する質問調査等を総合的に活用することで、授業改善や子どもたちの学習状況の改善に役立てることを目的として実施されています。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、課題がみられた学習内容の系統性を全教職員で意識し、各学年における授業改善や個に応じたきめ細かな指導につなげるとともに、子どもたちの学習習慣等の確立を図っていきましょう。

教科に関する調査の結果

※（ ）内の数値は、全国平均との差を示します。

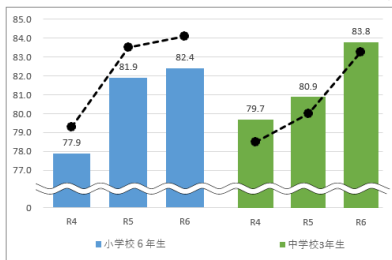
平均 正答率	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
三重県	67.1 (-0.6)	62.3 (-1.1)	57.0 (-1.1)	52.7 (+0.2)

- ◆調査問題は、学習指導要領の理念、目標・内容等に基づくものであり、小学校第5学年、中学校第2学年までに十分に身につけ、活用できるようにしておくべきと考えられるものが出題されています。

児童生徒質問調査の結果

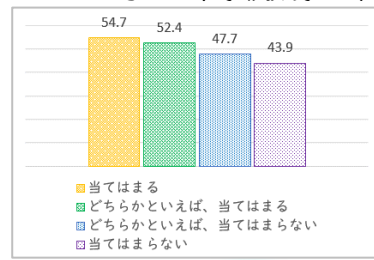
- 自分には、よいところがあると思う

—●—は全国平均



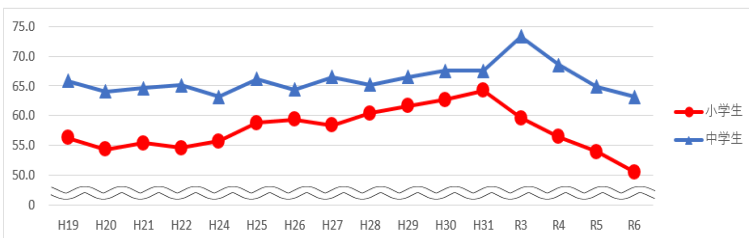
- ◆「自分には、よいところがあると思う」について、肯定的な回答をした割合が、小中学校ともに、昨年度よりも高くなっています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と中学校数学の平均正答率には、一定の相関がみられます（他教科も同様の傾向）。子ども一人ひとりに寄り添い、「学び」や「育ち」を支えていきましょう。

- クロス集計（先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと中学校数学の平均正答率）



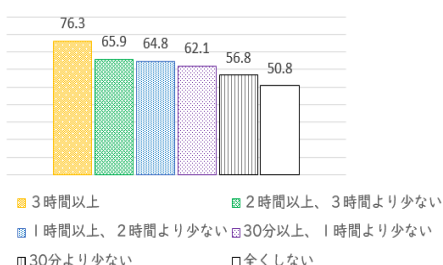
子どもたちが「わかった!」「できた!」という実感が得られる授業を!

- 平日の学習時間（1時間以上）



- ◆近年、授業時間以外に平日1時間以上学習する小中学生が年々減っており、平成19年度の調査開始以降、最も低い状況です。

- クロス集計（平日の学習時間と小学校算数の正答率）



- ◆概ね学習時間が長いほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります（他教科も同様の傾向）。子どもが主体的・計画的に学習できるよう、学校・家庭・地域が一体となって、学習習慣の確立に向け、取り組んでいきましょう。

「自ら取り組む家庭学習」の取組を!

三重県教育委員会
マスコットキャラクター
「みえびい」



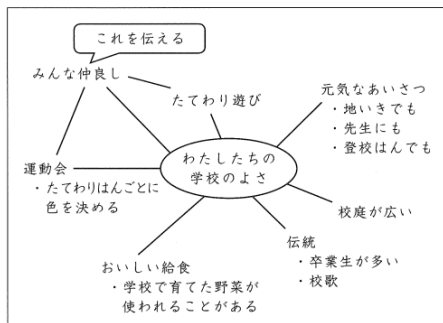
●●小学校国語●●

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることが求められています。

小学校国語 2ー(1) 【正答率】79.0%(全国差-1.3)

- (1) 高山さんは、文章に書くことを決めるために、次の(1)と(2)の問いに答えましょう。
- 最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 賛成と反対の両方の立場から考えた。
 - 書きやすい順番を考えた。
 - 他の人の考えを取り入れて考えた。
 - 集めた情報の共通点を考えた。

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一のよさだと思うから、文章に書こう。



高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

◆指導のポイント

事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書くときには、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして整理することが大切です。

指導に当たっては、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けたりしながら伝えたいことを明確にすることができるようすることが大切です。また、考えを明確にすることがなかなかできない児童には、他の人の整理の仕方を参考にして、考えるように指導することも考えられます。

なお、伝えたいことを明確にするための整理の仕方には、様々な方法があります。例えば、自分の考えを異なる立場の読み手に向けて主張する文章を書く際には、目的に応じて賛成と反対の両方の立場から考えることなどが考えられます。また、自分たちの生活をより良いものにするために提案する文章を書く際には優先順位を考えて集めた情報を並べたり、観察したことを報告する文章を書く際には起こった順に出来事を並べたりすることなどが考えられます。

(出典) 令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【小学校】 国語
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/primary_lang.html

報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。



●●小学校算数●●

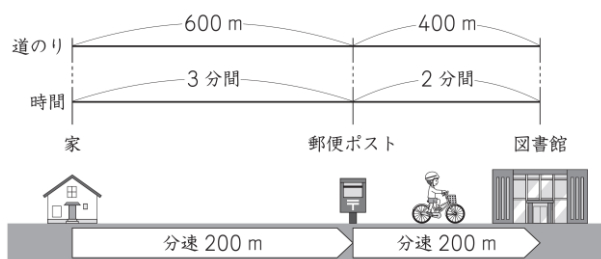
速さの意味について理解していることが求められています。

小学校算数④（４）【正答率】50.5%(全国差-3.6)

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600 mで、3分間かかり、速さは分速200 mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400 mで、2分間かかり、速さは分速200 mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

◆指導のポイント

道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要です。

指導に当たっては、例えば、家から図書館までの道のりとかかった時間を用いて、自転車の速さを求める活動が考えられます。その際、家から郵便ポスト、郵便ポストから図書館までの道のりと時間を読み取り、1分間あたりに進む道のりがいつでも200mで変わらないことを捉えることができるようにすることが大切です。また、家から図書館までの道のりと時間から速さを計算して求めることで、分速200mであることを確認することができるようにすることも大切です。

さらに、速さの意味に基づいて、速さを単位時間あたりに移動する長さとして捉え、問題場面に戻って、その速さが妥当かどうかを判断できるようにすることも大切です。

例えば、家から図書館までの道のりとかかった時間を基に、自転車の速さを $1000 \div 5 = 200$ で、分速200mと求め、さらに、分速は「1分間あたりに移動する長さ」という速さの意味に基づいて、いつでも1分間あたりに200m進むことを図と言葉を用いて説明する活動が考えられます。その際、分速400mや分速1000mなどの誤った例を取り上げ、速さの意味に基づいてその道のりや時間を求めたり、図に表したりしながら、問題場面と比べて求めた速さが妥当かどうか判断できるようにすることが大切です。

(出典) 令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【小学校】 算数
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/primary_math.html

報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。



●●中学校国語●●

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが求められています。

中学校国語 3 四 【正答率】46.2%(全国差-3.1)

③ 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた「フートの一部」と「物語の下書き」です。それを読んで、あとの問いに答えなさい。（フートの一部）及び「物語の下書き」の①から④は、場面の番号を表します。

（登場人物の設定）

・「僕」……紙の辞書の持ち主（中学生）

・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）

（もじする体験）

・小学生のとき、紙の辞書を机の上で開くと、

・使った辞書は、紙の辞書の引きが壊れて、

・紙の辞書を又しふりに使った。

（物語を通して伝えたいこと）

紙の辞書を又しふりに使って気付いたよさ。

（各場面）

① 出番のない寂しさ。

② 忘れられるかもしれない不安。

③ 久しぶりの出番で感じた喜び。

④ 次の出番への期待。

【物語の下書き】

① あの日僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほりだらけになりながら、中学生になつてから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けた、書き込みをしたりしてくれたのに。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

② インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれる。かさばらない。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

③ そう考えていたとき、君は僕の手を取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はこりこりで大きくしやみをした。ほりだらけの僕に顔をしかめられ、何度もページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引く。意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君は「あたり」の表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

④ あの日から数日が過ぎた。

四 佐藤さんは「物語の下書き」の□の部分で、「フートの一部」の④の場面の「僕」の心情を伝えて物語を終わようとしています。あなたなら、どのように工夫して書きますか。次のア、イについて、それぞれの指示にたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 「あの日から数日が過ぎた」に続けて、表現を工夫して書きなさい。

イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

◆指導のポイント

自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確認しながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要です。その際、自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているかを確認することができるよう指導することが大切です。

指導に当たっては、例えば、物語を創作する学習の中で、下書きした文章などを読み合い、どのようなことを伝えようとして各場面の内容を構想していたのか、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動が考えられます。

（出典）令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【中学校】 国語

（国立教育政策研究所 HP）

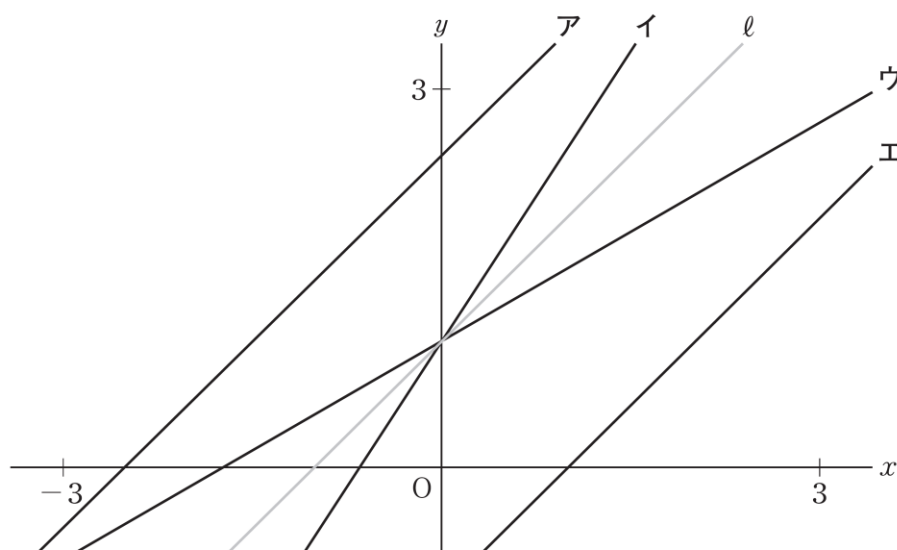
https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/middle_lang.html

報告書には、「授業アイデア例」も掲載されています。



中学校数学 4 【正答率】63.7%(全国差-1.6)

- 4 一次関数 $y = ax + b$ のグラフについて考えます。下の図の直線 ℓ は $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフです。直線 ℓ に対して、 $b = 1$ を変えずに a の値を 1 より大きくしたときのグラフが、直線アからエまでの中にあります。それを 1 つ選びなさい。



◆指導のポイント

一次関数 $y = ax + b$ のグラフについて、 a や b の値の増減によってグラフが変化する様子を捉える活動を通して、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにすることが大切です。

指導に当たっては、コンピュータを活用して、 b の値を固定し a の値を変化させたり、 a の値を固定し b の値を変化させたりしたときの $y = ax + b$ のグラフを観察する活動を取り入れることが考えられます。このような活動を通して、 a や b の値の増減とグラフの変化の様子を関連付けて捉えることができるように指導することが大切です。

なお、関数 $y = ax^2$ のグラフについて学習する際にも、コンピュータを活用して、 a の値を変化させたときのグラフを観察することで、 a の値とグラフの開く方向や開き具合を関連付けて理解できるように指導することが考えられます。

(出典) 令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書 【中学校】 数学
(国立教育政策研究所 HP)

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/middle_math.html

報告書には、「授業アイディア例」も掲載されています。



「できなかったところ」を「できる」ようにするために

「できなかった設問」については、授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習の場面で、県が提供している教材や、学校独自の教材等を活用するなど、一人ひとりの子どもの理解・定着につながるよう取組を進めてください。

みえスタディ・チェック関連問題の活用を！

【みえスタディ・チェック CBT 関連問題】

- ◆みえスタディ・チェック終了後、児童生徒は自分の1人1台端末ですぐに設問ごとの正解・不正解を確認することができます。
- ◆一人ひとりの定着状況に合わせた学習ができるよう、みえスタディ・チェックの設問ごとに、正解の場合は、さらに難しい問題を、不正解の場合は、学習内容を遡った問題を1人1台端末に提供しています。
- ◆教員は、教師用機能で児童生徒の実施状況が把握できます。一人ひとりに応じたきめ細かな指導に活用してください。

(例) 令和6年度第1回
みえスタディ・チェック
小学校第5学年算数
設問7

7 さちさんの部屋のまどから見える電柱の高さは8m、えんつつの高さは20mです。



えんつつの高さは、電柱の高さの何倍ですか。
答えましょう。

設問7 関連問題

各設問の関連問題は、
教師用解説資料に
載っています。

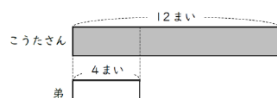
【関連問題】

《正答の場合》

どんぐりを、たろうさんは9個、弟は45個拾いました。
たろうさんは、弟の何倍拾いましたか。求める式を答えましょう。

《誤答の場合》

こうたさんは色紙を12まい、弟は色紙を4まい持っています。
こうたさんの持っている色紙のまい数は、弟の持っている色紙のまい数の何倍ですか。求める式を答えましょう。



正

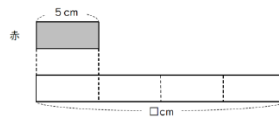
誤

青のテープの長さは、8cmです。
青のテープの長さは、白のテープの長さの4倍です。
白のテープの長さは何cmですか。

みさきさんの部屋のまどから見える電柱の高さは8m、えんつつの高さは40mです。
えんつつの高さは、電柱の高さの何倍ですか。求める式を答えましょう。

みさきさんの部屋のまどから見える電柱の高さは8m、えんつつの高さは40mです。
えんつつの高さは、電柱の高さの何倍ですか。

赤のテープの長さは、5cmです。
赤のテープの4倍の長さは何cmですか。



正

誤

関連問題の活用方法（例）

- ・担任（教科担当）がS-P表を活用して課題が見られる問題を明らかにし、該当の問題とその関連問題を取り上げて解説や学び合いをした後、定着を再確認する。
- ・担任（教科担当）が解答状況を確認し、一人ひとりの定着状況に応じたきめ細かな指導を学年の教員で行う。
- ・児童生徒が関連問題の解答結果をもとに、不正解の問題を他の児童生徒に質問したり相談したりするなど、教え合い学び合う時間を設定する。

「みえスタディ・チェック関連問題の操作方法と活用方法」は、「みえの学力向上県民運動」ホームページ内「先生のページ」の「S-P表・関連問題の説明資料」に掲載しています。

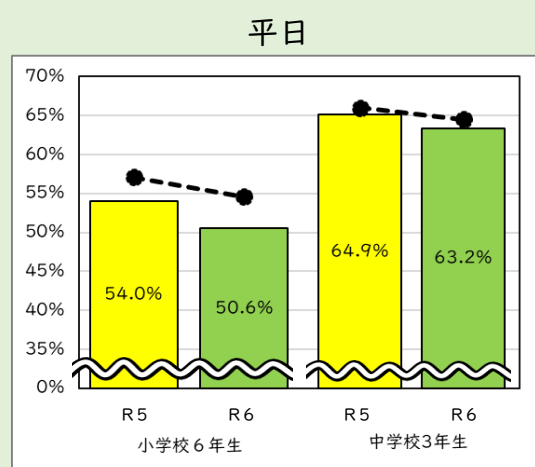


児童生徒質問調査について

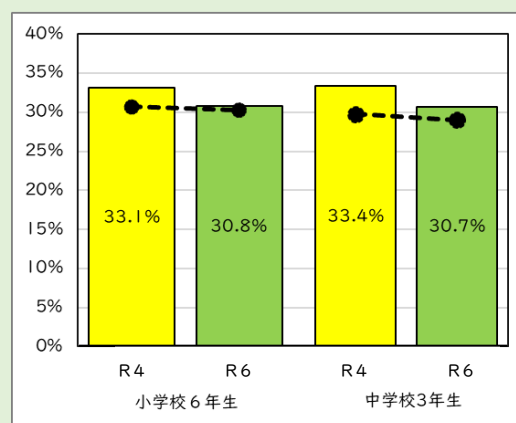
学習習慣・生活習慣に関する状況

授業時間以外に1時間以上学習する児童生徒が年々減っており、全国平均より低い状況が続いています。また、平日に3時間以上ゲームをする児童生徒は令和4年度よりも減少したものの、3時間以上 SNS や動画視聴などをする児童生徒は令和4年度と同等か全国平均より高い状況です。

○学習時間（1時間以上）

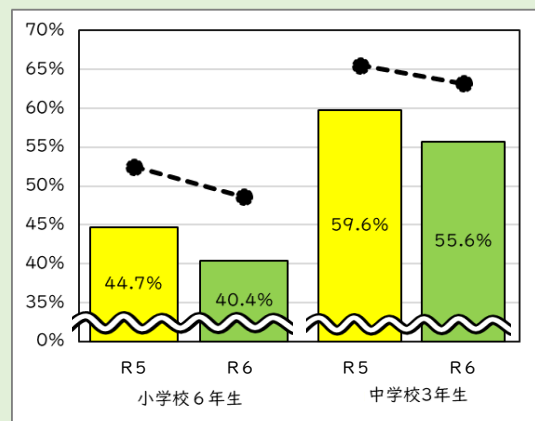


○平日のゲームの時間（3時間以上）



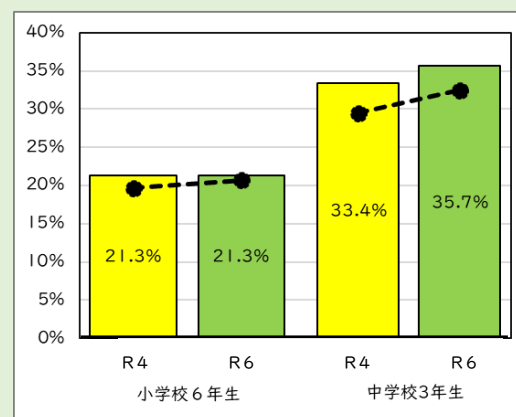
※R5年度は質問項目がないため、R4年度の結果を掲載しています。

休日



※---●---は全国平均の推移を示します。

○平日のSNSや動画視聴などの時間（3時間以上）



※R5年度は質問項目がないため、R4年度の結果を掲載しています。

児童生徒質問調査と各教科の正答率のクロス集計では、小中学校ともに、1日当たり勉強する時間が長い児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

子どもが主体的、計画的に学習ができるよう、学校・家庭・地域が一体となって、学習習慣等の確立に向けて取り組んでいきましょう。

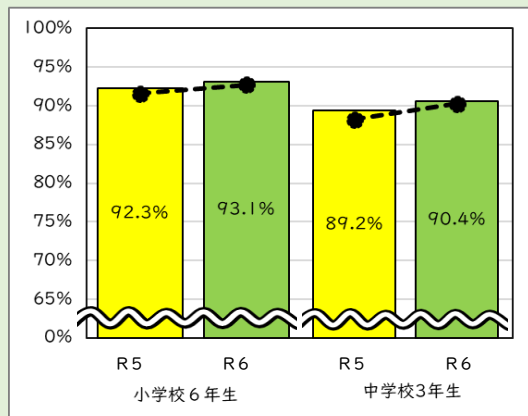
三重県教育委員会
マスコットキャラクター
「みえびい」



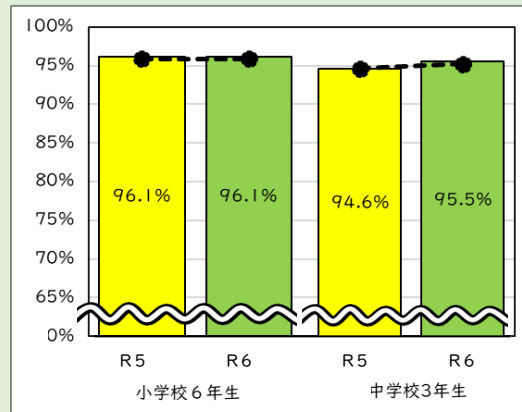
自己肯定感等に関する状況

「人が困っているときは、進んで助けている」、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答している児童生徒はともに9割を超えています。

○人が困っているときは、
進んで助けている
(肯定的回答)



○人の役に立つ人間になりたい
(肯定的回答)



自己肯定感



子どもたちの、他者や
社会のために役立ちたい
と思う気持ちを大切にし
ていきましょう。

三重県教育委員会
マスコットキャラクター
「みえびい」



<参考>

令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料(国立教育政策研究所 HP)
<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/>



令和6年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について(国立教育政策研究所 HP)
<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>



<編集・発行> 令和6年10月発行
三重県教育委員会事務局 学力向上推進プロジェクトチーム
TEL:059-224-2931 E-mail:gakupro@pref.mie.lg.jp